

### 3 リン片剥離処理によるオリエンタル系ユリ類の葉焼け症軽減効果

#### ねらいと成果

オリエンタル系ユリ類の抑制栽培等において、葉焼け症が多発し、生産上の大きな問題となっている。そこで原因の究明と対策に取り組み、葉焼け症の発生には球根の重量や上位葉のカルシウム・リン栄養との関係が深いことが明らかになった。また、球根のリン片をあらかじめ2～4枚剥離してから定植することで、症状を軽減できた。

#### 内容

ユリ葉焼け症は、主に生育後期の発蕾期以降に発生し、成長点付近の葉に白い斑点やかすれが生じ、最終的には褐変枯死にいたり(図1)、切り花品質を大きく低下させる。原因には、カルシウムの欠乏、過剰な日照、高温との関わりが指摘されているが、いまだ解明されていない。

試験はまず、品種「スターゲイザー」を用いてポット試験を行い、葉焼け症の程度と球根重との関係を調べた。その結果、球根が重くなるほど葉焼け症が激しくなる傾向にあった(図2)。そこで、球根のリン片を2～6枚剥離して定植すると、葉焼け症の発生率は明らかに減少した(図3)。この時、地上部の生育はリン片4枚以上の剥離で、茎長、重量などが減少し、過剰な剥離処理は育成に負の影響を与える。そのため、リン片の剥離は2～3枚の範囲が適性と考えられた。この時、花数には変化が見ら

れず、小球を植え付けるよりも開花数が多くなった。

葉焼け症の原因の一つにカルシウム欠乏が指摘されているが、これまでの研究からはリンとの比率が重要で、上位葉のP/Ca当量比が高いと葉焼け症が激しくなる関係が認められている。リン片の剥離処理によってもP/Ca当量比は低下しており、リン片の剥離処理によりユリの養分要求量に変化して、葉焼け症状を起こし難くしているものと考えられた。

#### 今後の方針

他の葉焼け症状に有効な対策との組み合わせにより効果を高めて、普及を図る。

牧 浩之(中農技・環境部)

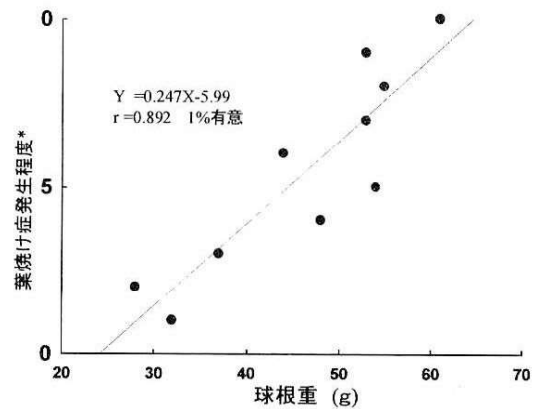


図2 葉焼け症の発生程度と球根重の関係  
\* 数値が高いほど症状が激しい

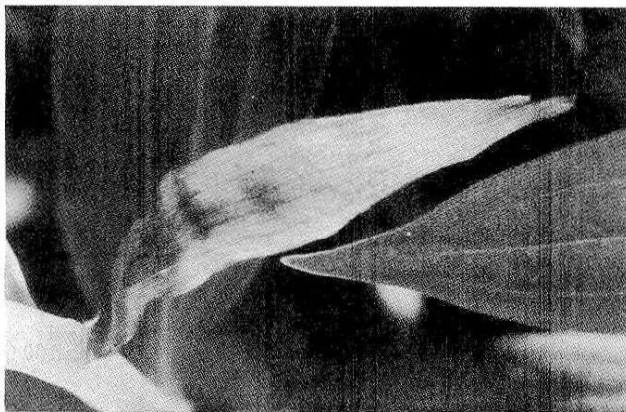


図1 葉焼け症の症状

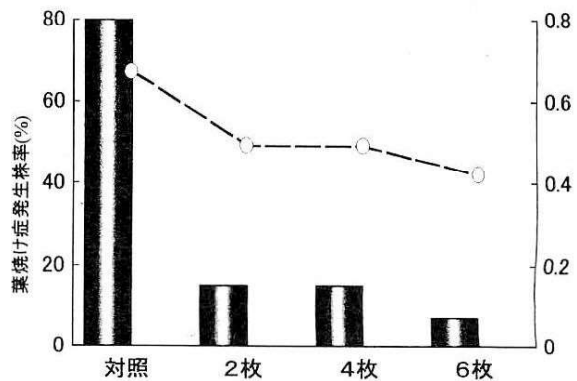


図3 リン片剥離による葉焼け症の軽減効果  
○---○---○ 上位5葉中のP/Ca当量比